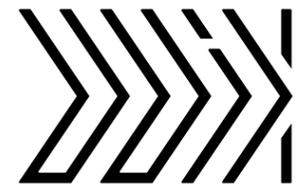


大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

研究課題名：“神戸最後の前方後円墳”の高精度3Dデジタル・アーカイブの構築と
その戦略的活用

研究期間：2023年11月～2025年3月

交付決定額(研究期間全体)：2,100千円

申請区分：一般助成型
課題番号：A23101

研究代表者：神戸女子大学文学部史学科
准教授 齋藤 瑞穂

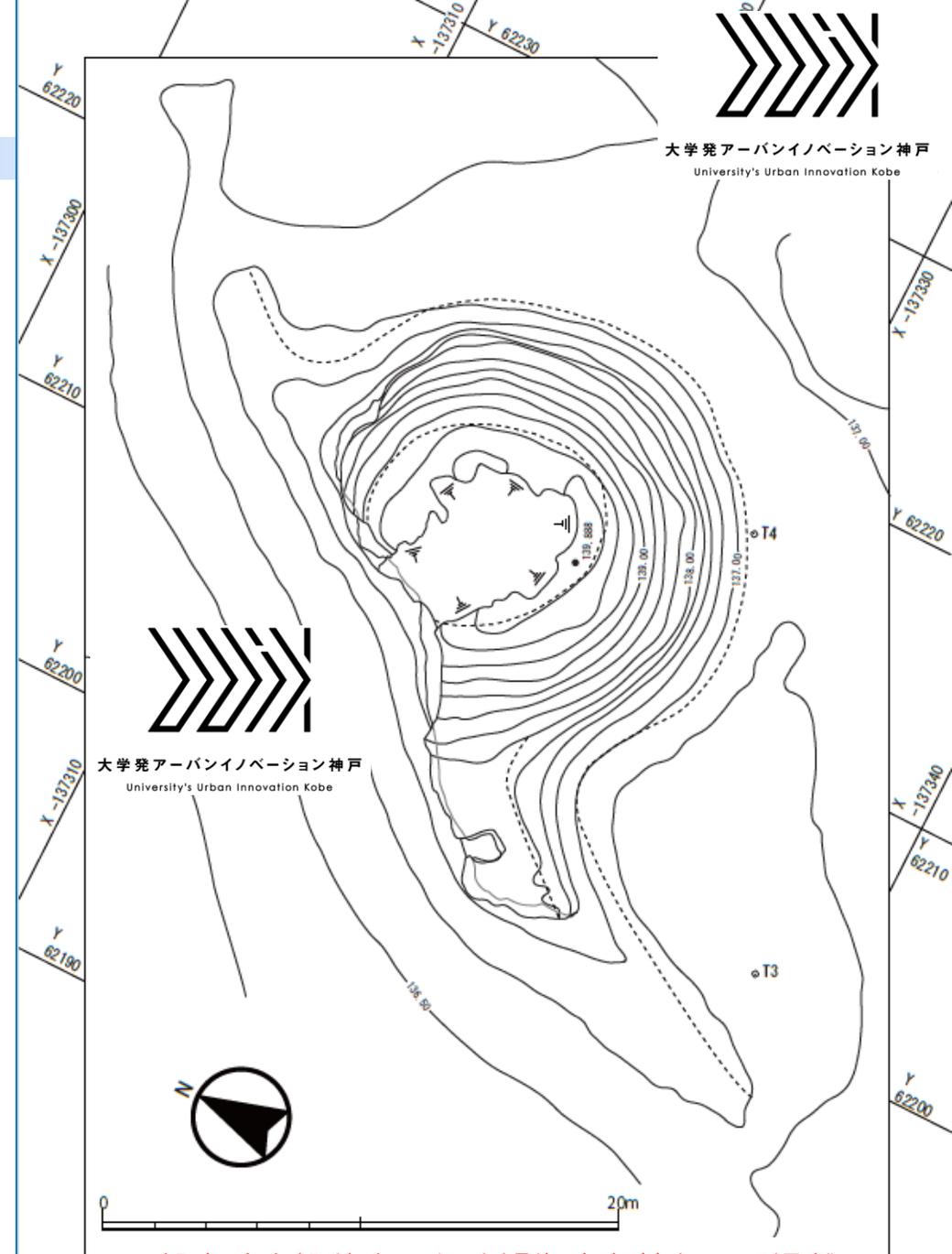
1. 研究成果の概要

- “神戸最後の前方後円墳”・西区金棒池古墳の高精度測量を実施し、次のことが明らかになった。

墳丘長（遺存長）：24.5m
後円部径（復原径）：18m
後円部高：3m
前方部長（遺存長）：6.6m

ただしこの測量調査だけでは、墳形と本来の墳丘長を復原するまでは到らなかった。

- 2024年11月、「神出の皆さんへの金棒池古墳調査報告会」を古神公民館で開催。公民館が満杯になる30名以上の市民に集まっていたいただき、本研究2年間の結果を報告した。地域の方々の関心は予想以上に高く、貴重な歴史遺産の価値をシェアすることができた。
- 未解明部分を残した点、市民の関心が高い点をふまえ、神戸市文化スポーツ局文化財課と研究連携協定をあらためて締結。本古墳の実態解明に向けて引き続き取り組むことになった。



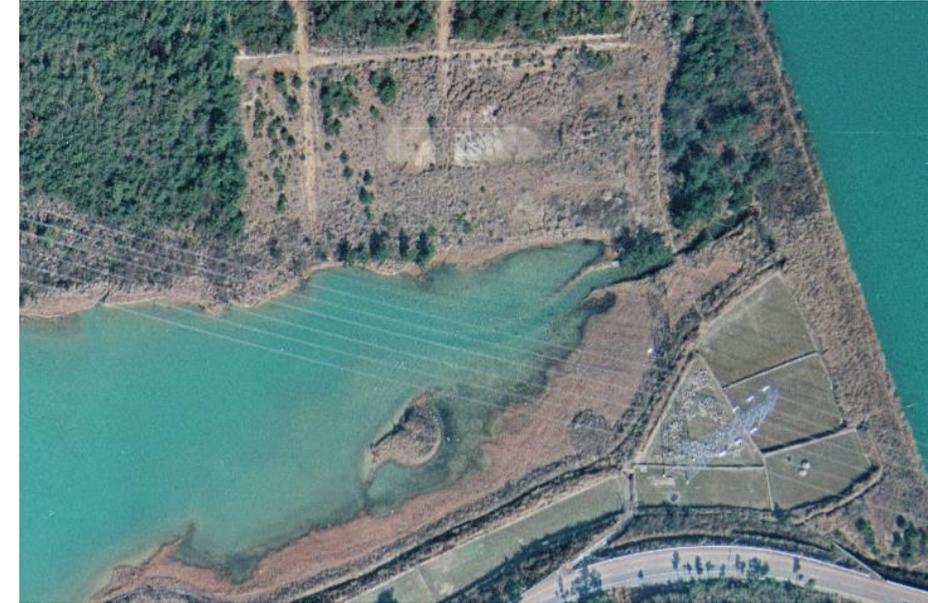
報告論文投稿中のため解像度を落として掲載

2. 研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義

金棒池古墳は、特定ため池である金棒池の中に存する。水を湛えていた時代は池に立ち入ることも難しく、手掛かりは唯一、神戸古代史研究会の1973年測量図のみであった。

本研究の学術的意義は、広く使われていた同測量図を検証し、問題点をあぶり出したところにある。早くから識者の関心を集め、多くの論文で俎上に上がってきた遺跡であることから、本研究の成果が現行の古墳時代研究に果たした貢献は大きい。発掘調査を経て問題点が克服され、墳形・規模が定まれば、後期古墳研究上の定点資料として、今まで以上の広い学術的利用が見込まれる。



金棒池が水を湛えていた頃の金棒池古墳
(国土地理院撮影空中写真, 昭和51年1月)

社会的意義

本研究は、貴重な歴史遺産をサステナブルに守り継いでいく仕掛けの構築をめざした。幸いにも、地元古神地区の多くの方々が高い関心を寄せてくれたことにより、私たちは都度調査の状況を伝え、一方で多岐にわたる情報が市民から提供された。こうした教え合い学び合いにより、最新の研究成果と遺跡の価値を官学民で共有することが、将来の神戸市民に貴重な歴史遺産を残す唯一の道であると承知している。

2024年11月開催の「神出の皆さんへの金棒池古墳調査報告会」に多くの市民が集まり、互いに議論しあったのは、本研究の方向性に間違いがなかった結果であると自負している。

3. 研究開始当初の背景

金棒池古墳とは

金棒池古墳は西区神出町に所在する。明治44年刊『西摂大観』に「雄子尾雌子尾両山の間金棒池と称するあり、此池の塘に古墳あり、嘉永年間池塘修繕の際是を掘りしに、多くの齋部土器及び曲玉管玉二寸許等を掘り出せり」の記述が見えるなど早くから知られてきた。現在、宮内庁書陵部が所蔵する「明石郡神出村大字小神字丸岡」出土の仿製鏡と玉類・装飾品なども、同古墳が過去に破壊（土取り）された際の出土品とみるのが有力である。

金棒池古墳研究の課題

この古墳に対する理解を前進させたのは、神戸古代史研究会による1973年の測量調査である。以来、同会が作成した測量図は、これまでの半世紀にわたって神戸市域の古墳時代像描出に大きな貢献を果たしてきた。

しかしながら問題がないわけでない。半世紀前の調査であるから正確な標高値・座標値を欠く点は致し方ないにせよ、墳端の位置を定めた根拠が乏しく、追検証が難しい。そのため同古墳は、墳形・規模復原案は幾通りも作られている状況にある。



4. 研究の目的

本研究の視座

垂水区五色塚古墳を筆頭に、神戸市には兵庫県を代表する古墳が多く、近年の「墳活ブーム」の到来も影響して訪れるファンは多い。しかしながら、全てが五色塚のように表示・整備されているわけではないため、重要性や意義が広く知られていない古墳も少なくない。そのうちの1つが、神戸市域最後の前方後円墳と見込まれる西区金棒池古墳である。

目的1

3D計測技術を駆使して、金棒池古墳の測量データを構築する。過去の図面（1973年調査）を検証し、かつ不足する部分を補うことにより、高い次元での議論が可能な学術的基盤を作る。

目的2

金棒池古墳の価値を市民とシェアし、貴重な歴史遺産を市民の手で守り継ぐ筋道を作る。



5. 研究の方法

現地調査

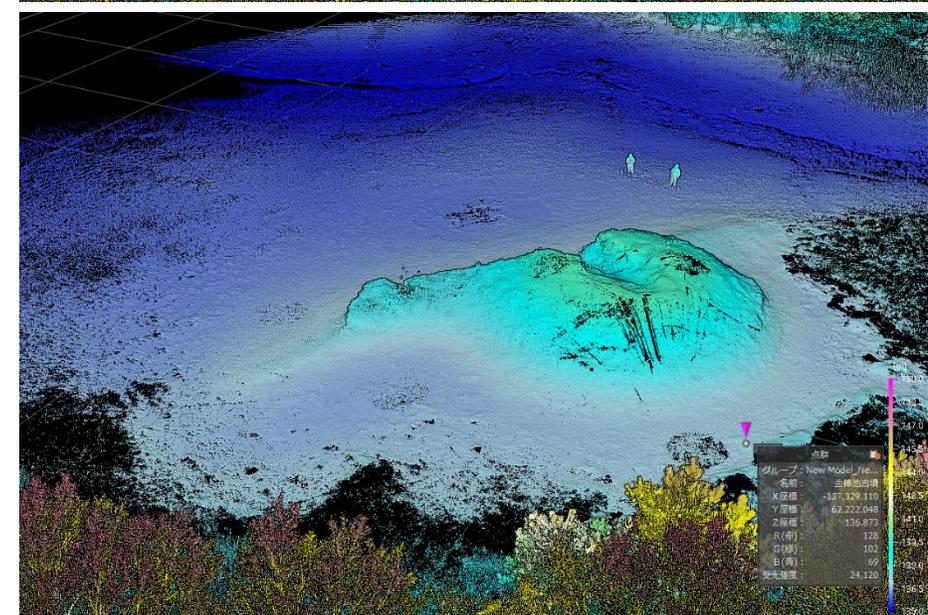
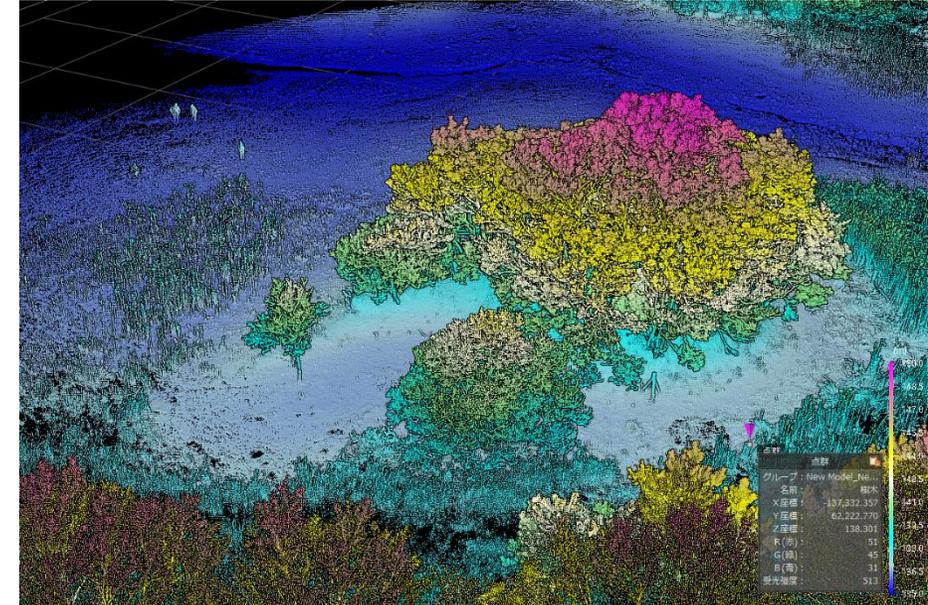
1. 特定ため池である金棒池の水が抜ける冬季を待ち、神戸女子大学文学部史学科の考古学ゼミ生を主体として、古墳の平板測量を行う。
2. 東京航業研究所の全面協力のもと、古墳のレーザー測量を実施。平板測量では難しい微妙な傾斜の変化をつかむ。

統合作業・事実の整理

3. 現地調査1・2の成果を突き合わせて、古墳の現状を正確に把握し、3D測量データを作成する。
4. 古墳周囲で採集される須恵器類の年代研究を進める。
5. 摂津・播磨に造られた、他の6世紀古墳との比較研究を行う。

成果の公表・成果の還元

6. 調査報告論文を投稿して、学界に成果を報告。
7. 地元の方々に向けた成果報告会を開催する。市民と相互に学びあう機会とし、地元の歴史遺産を市民主体で継承していく道筋を作る。



6. 研究成果（成果物）

講演・口頭発表等

- ①齋藤友里恵 2024「神出周辺の環境と歴史」神出の皆さんへの金棒池古墳調査報告会，2024年11月24日。
- ②齋藤瑞穂 2024「金棒池古墳測量調査（23年度）の成果一明らかにになったこと，ならなかったこと一」神出の皆さんへの金棒池古墳調査報告会，2024年11月24日。
- ③齋藤瑞穂・中島小春・藤田麻希 2025「神戸市金棒池古墳の測量・発掘調査〈速報〉一明石川流域の後期前方後円墳一」考古学研究会関西例会第247回研究会（兵庫例会），2025年4月5日。

論文

- ④齋藤瑞穂・齋藤友里恵・鈴木智之・大久保聡・宅間清公（査読中）「神戸市金棒池古墳の測量調査」

アウトリーチ：YouTube 神戸女子大学史学科お史ちゃんねる

- ⑤武藤 望「女子大で古墳の測量やってみた！[神戸市金棒池古墳]」
2024年11月15日公開。
- ⑥武藤 望「女子大で古墳の発掘やっちゃうぞ！[神戸市金棒池古墳]」
2025年1月19日公開。
- ⑦武藤 望「金棒池古墳のVR体験360° [測量編]」2025年1月19日公開。



6. 研究成果（詳細1）

3D測量データの完成

計測値は、スライド「1. 研究成果の概要」を参照されたい。明治年間以前の土取り工事で破壊を受けていたことは知られていたが、池が水を湛えていた頃の汀線もまた古墳に大きなダメージをあたえたことがこの測量調査で初めて判明した。

後円部径は復原可能だが、前方部長の復原は難しい。両測量手法の結果を総合しても前方部の端を見定められなかったためである。

採集須恵器の年代研究

古墳の周囲で採集された須恵器は2種に分かれ、一方は近傍の神出窯跡群で生産された11～12世紀代の例である。もう一方は、小破片ながら古墳時代後期中頃の例と推測し得る。

周辺で造られた6世紀古墳との比較研究

東播磨における後期の前方後円墳の分布をみると、5～10kmほどの間隔で散らばり、頭抜けて大きい例はない。30mを前後する例が多く、金棒池古墳の本来の規模もおおよそこの程度と推測される。それを確かめるためにも、前方部墳端の検出が今後の課題である。



6. 研究成果（詳細2）

成果の公表・成果の還元

2024年11月24日、神出町古神公民館で**神出の皆さんへの金棒池古墳調査報告会を開催**し、小学生を含む30人以上の市民に参加いただいた。「神出周辺の環境と歴史」と「金棒池古墳測量調査（23年度）の成果」の2本の講演で最新の成果を還元した。

市民の関心も高く、終了後の意見交換の際は、参加者らが子どもの時の古墳の状況等貴重な情報が提供された。「定期的に古墳の草刈りをしようか」「看板必要やなあ」という声が上がった点も特記しておきたい。

2025年4月5日には、**考古学研究会関西例会第247回研究会で成果の速報報告**を行った。関西一円から30人以上が参集し、古墳の規模をどのように考えるか、周辺の古墳との関係性、次にどのような調査が有効かなど意見交換が行われた。

本研究の成果をより広く伝えるため、神戸女子大学史学科のYoutubeチャンネル「お史ちゃんねる」にて3本の動画を公開した。



- 会下坊 1911「播州神出村雄子尾雌子尾山之記」『西摂大観』郡部，明輝社。
- 鎌谷木三次 1973『播磨出土漢式鏡の研究』鎌谷古文化財研究室。
- 岸本一雄（編）1964『私たちの郷土 神出』神戸市立神出小学校。
- 岸本道昭 2000「播磨の前方後円墳研究序説―測量調査と集成による基礎作業―」『播磨学研究』第6号，播磨学研究所。
- 喜谷美宣 1989「古墳時代」『新修神戸市史』歴史編Ⅰ―自然・考古―，新修神戸市史編集委員会。
- 後藤守一 1926『漢式鏡』雄山閣。
- 檀上重光 1960『祖先のあしあと』Ⅲ，のじぎく文庫。
- 檀上重光 1961『祖先のあしあと』Ⅳ，のじぎく文庫。
- 千種 浩 2013「金棒池1号墳」『神戸の古墳』Ⅰ―前方後円墳―，神戸市教育委員会。
- 中村憲司 1974「金棒池1号墳地形測量報告」『神戸古代史』創刊号，神戸古代史研究会。
- 櫃本誠一 1992「吉田王塚古墳」『兵庫県史』考古資料編，兵庫県史編集専門委員会・兵庫県。
- 福原潜次郎 1921「兵庫県明石郡垂水村西垂水五色山古墳に就いて」『歴史地理』第38巻第3号，日本歴史地理学会。
- 松本正信 1992「播磨」『前方後円墳集成』近畿編，山川出版社。
- 丸山浩編 2012『明石の古墳』Ⅱ，発掘された明石の歴史展実行委員会・明石市。